二〇二二年度入学試験　BT

京都先端科学大学附属中学校

国語的内容

注　意

○　問題は全部で八ページあります。

○　「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。

○　解答は、すべて解答用紙に記入してください。

○　質問がある場合は、静かに手をあげ、教員が来るのを待ってください。

○　「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は教員の指示にしたがってください。

一　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

私たちの頭の中の基準となる値段は【　①　】に作られたものではありません。大人の一日の平均的な買い物時間は三十分だといいます。年間にすれば、二百時間近い買い物の経験の裏付けがあってはじめてできたものなのです。

また個々の買い物行動は、様々な心理をたどって行動に至っています。基準となる値段は、そ[1]の積み重ねの結果として、作られたのです。

本節では、その買い物心理と行動がどのように進行しているのか、その流れを学ぶことにしましょう。

[2]私たちが何かを欲しいと思うときとはどんなときでしょう。急に何かを食べたくなるとき、それは昼休みの時間が近づいてきたときとか、散歩にでも行ったときに、ふと見かけたケーキ屋で美味しそうなケーキに気付いたときとか、様々な場面があります。

もちろん、自分自身が空腹感を感じていたのかもしれないし、また外からその空腹感を誘い出す刺激があったからかもしれません。その刺激に私たちの注意が働くことで、空腹感を意識し、結果として買って食べようという決心（？）につながっていきます。

こうした[3]人間の「注意」、「意識」がどのように働くかを研究しているのは「認知心理学」という脳の働きを研究する分野です。「注意」とは、「周りの様々な情報の中から、ある一つのことを選択する」こと。次に「注意」して選択した情報を「意識」して、どうするかを考えます。

このことからも、ある商品の存在について、私たちの注意をどう引いて、意識させるか、そこに売り手の心理学的な仕掛けどころがあることがわかります。

このように、私たち消費者の心理や行動を理解するには、私たちが外からの刺激に対して、どう意識が反応し、それがどう行動につながっていくか、という流れを理解する必要があります。

何かを欲しいと思うことは、逆に見れば、それは足りない、またはないことの裏返しです。欲求とは、何かが「足りない」という「意識」でもあります。欲求があってはじめて何かを入手しよう、

買おうという意識が生まれます。

欲求と同じような言葉に、「ニーズ」または「必要性」という言葉があります。例えば、この新商品は、若い人たちに「ニーズ」があるかどうか、などといった場面に使います。

買い手の立場からは「欲求」を感じるかどうか、売り手の立場からはそこに「ニーズ」があるかどうかという言い方になります。

しかし欲求はそう単純なものではありません。今日はお昼にお弁当を食べたいというのは、もちろん食欲を満たすためですが、同時に仲間との語り合いの場を作るためかもしれないし、高級なお弁当なら見栄を張るためかもしれません。欲求は複雑なものです。この欲求こそが何かを買いたいという動機を生み出す原動力であることを忘れてはいけません。

例えば、欲しいから買いたいと思っていた商品が目に止まる。A色つやのいいトマトが B一個一00円だ。

まず（　②　）によりその商品と値札が私たちの注意を引いてきます。さらに、意識としてこの商品が、C自分が欲しいと思っていたトマトであることを理解します。これを「知覚」と呼びます。

目に入っただけでは何も感じませんが、これはトマトであると知覚してはじめて、次に、欲しかったトマトかどうかを認知することになる。

とにかく、商品と値札はまず（　②　）にキャッチしてもらわなければ話は始まりません。

ここで、このトマトを買うべきか買うべきでないかの段階になります。D商品としての外観、色つや、規格、傷がないか、さらに第一節で学んだように、E値段がその品質に照らして妥当なもの*かを確認して、問題がなければ、よし買おうと行動に移るのです。

しかし、こうした食べ物の価値、美味しいかどうかは食べてみなければわかりません。美味しそうな柿でも渋いことがあります。うまくいけば満足し、うまくいかなかったときは、反省します。日々欠かせない買い物はその満足と反省の繰り返しであり、その積み重ねでもあります。

こうした経験を積み、学習することで、当たり外れも含めて、商品と値段の関係、この程度の品

質ならこの程度の値段が適当という判断力が鍛えられ、私たちの記憶に止まることになります。その経験値が、私たちの「参照価格」なのです。

もう一度新たな買い物をすると、さらに学習し、その結果が記憶されて、私たちの判断力が鍛えられていく。今度はさらに改善された「参照価格」を確認する。このステップの繰り返しです。

逆に考えれば、あまり買い物経験がないと、しっかりした経験値もなく、失敗することも出てきます。何事も経験なのです。

（徳田賢二『値段がわかれば社会がわかる　はじめての経済学』）

＊　妥当な　…　適切な。

問一　【　①　】に入る「極めて短い時間」という意味の四字熟語を次から選び、記号で答えなさい。

ア　一進一退　　イ　一期一会　　ウ　一朝一夕　　エ　一長一短

問二　――部　1「その積み重ね」とありますが、「その」が指し示すものを本文から十字以内で抜き出しなさい。

問三　――部　2「私たちが何かを欲しいと思うときとはどんなとき」とありますが、売り手が意識するべき仕掛けとはどのようなことですか。説明しなさい。

問四　――部　3「人間の『注意』、『意識』がどのように働くか」とありますが、本文中の波線部A～Eは、「注意」、「意識」のどちらにあたるものですか。記号をそれぞれにふりわけなさい。

問五　（　②　）に入る語としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　嗅覚　　イ　視覚　　ウ　触覚　　エ　聴覚　　オ　味覚

問六　筆者は買い物に失敗しないためにはどのようなことが必要だと考えていますか。五十字以内で説明しなさい。

二　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

誰でもお腹が空くと食べ物を欲します。食事を摂るのは、まず食欲を満たすためです。おいしいものを食べ、綺麗な服を着て、豪華な住宅に暮らせれば、幸せだと感じます。このようにモノやサービスを消費することによって各個人が最終的に*享受する幸福や欲望充足の度合は、ひとの福祉の基準として適切だといえるでしょうか。

一九世紀以来の功利主義の考え方では、幸福ないし欲望充足の度合を「効用」とよび、効用をひとの福祉の基準とみなしてきました。ここでは「効用」という言葉も「功利」という言葉も、通常使われるときの意味とは違うことに注意してください。効用とは、「薬の効用」のように、効能・効き目とか使い道といった意味でよく使われますが、経済学では幸福または欲望充足の度合を指します。また、日本語で「功利的」というと、自分の利益だけを求めるさまを指しますが、功利主義自体にこのような意味はなく、効用をひとの境遇の良しあしの*尺度とし、社会全体の効用の*総和が大きいほど社会状態は望ましいとする考え方のことです。

さて、効用は、ひとの境遇の良さを測るのに適切な尺度なのでしょうか。確かに、食べるものも十分になくて食欲を満たせず、粗末な住居で冬の寒さに耐えているひとや、病気で苦痛を感じてい

るひとの境遇が良いとはいえません。逆に[2]イショクジュウに何ら不足なく、健康で人間関係もうまくいっているひとの幸福・欲望充足の度合は高く、したがって良い境遇にあるといえるように思われます。

しかし、功利主義の考え方にはいくつかの問題点があります。第一に、功利主義では幸福ないし欲望充足の度合が数値によって計測され、しかも異なる個人の間でもその数値を比較することに意味があると考えていますが、その根拠は薄いといわざるを得ません。たとえば、「あなたがこのケーキを食べたときの幸福の増加量は一〇だが、私が食べたときの幸福の増加量は二〇で、あなたの二倍あるから私が食べるべきだ」と主張しても、相手は納得しないでしょう。幸福や欲望充足は（　①　）的な感覚ですから、その度合を（　②　）的な数量として計測することは困難です。後の章でも触れますが、二〇世紀以降の経済学が功利主義をベースとしない理論を構築しようとしてきたのは、（　③　）的に観測可能な*概念に基づいて科学は築かれるべきだと考えたからです。

第二に、幸福・欲望充足という（　④　）的感覚は、その個人の形成してきた習慣や、置かれている社会的環境にも強く影響されます。たとえば、裕福で贅沢な飲食に慣れ、高級な*シャンペンがないと欲望が満たされないAさんと、貧しくて辛うじて健康を維持するのに必要な食事を摂取しているBさんがいるとします。Aさんは、贅沢な食事はあるが、高級なシャンペンがないために不満を感じている一方、Bさんはたまたま普段は食べられないようなご馳走――それでもAさんの食事よりははるかに質素な食事――を得られて快い気持ちになっているとしましょう。このとき、幸福・欲望充足の水準という功利主義の評価基準では、Aさんの方がBさんよりも劣ることになってしまいます。しかし、贅沢な食事をするAさんの境遇の方が、質素な食事をするBさんの境遇よりも悪いという評価は、明らかに不適切でしょう。同様に、各世帯が二、三台の車をもつのが珍しくないアメリカ社会で、車を一台しか買えないために不満を募らせているひとと、荷車程度の車両しか普及していない最貧国で一台の*スクーターを手に入れて大変に満足しているひととを比較して、幸福・欲望充足の水準という観点から、後者の境遇の方が[3]前者の境遇よりも恵まれている、とい

うのは直観的に受け入れがたい主張です。このように、効用の水準は習慣や社会的環境などに影響を受けるため、その個人の置かれている客観的な状況を評価する基準としては適切ではないのです。この功利主義の欠点を、現代の代表的な厚生経済学者アマルティア・センは「[4]物理的条件の無視」といいました。

第三に、幸福ないし欲望充足の度合が高まるということが、必ずしもそのひと自身の生き方の向上と結びつかない場合があります。たとえば、喫煙者にとって一服のタバコからは快楽を得られます。しかし、このひとは本当は健康と他人の受動喫煙の回避のために禁煙したいと思っていて、タバコを吸うという行為を、より良い生き方とは考えていないかもしれません。このとき、タバコを吸うことによって欲望が充たされ、このひとの状態はより良くなったというべきなのでしょうか。「欲望を充たす」ということと、自分自身がその行為を「評価する」こととは、必ずしも一致しません。人間は、自分の今の生き方を他にとり得る生き方と比較し、あるいは自分の生き方と他人の生き方とを比較評価することのできる存在です。福祉とは人間のより良い状態とは何かを問うものですから、むしろ「評価する」という人間の精神的活動に関わります。この点を見逃している功利主義に対して、アマルティア・センは「[5]評価の無視」といって批判しました。

評価するという視点に立つならば、前に述べた功利主義の第二の問題にも新たな見方が可能になります。アメリカ人に対して車一台で欲求が充たされているかと問うのではなく、また最貧国のひとに対してスクーターを得て満足しているかと問うのではなく、どちらのひとの状態の方が恵まれていると評価するかと問うならば、大概のひとはアメリカ人の方が恵まれていると答えることでしょう。「欲求する」という純粋に主観的な行為に比べて、「評価する」ということは、より客観的な観点に立つ精神的活動なのです。

（蓼沼宏一『幸せのための経済学　効率と衡平の考え方』）

＊　享受　…　受け入れて自分のものとすること。　尺度　…　判断評価などの基準。

総和　…全ての合計。　　概念　…物事の大まかな内容や考え方。
シャンペン　…　お酒の一種。　スクーター　…バイクの一種。

問一　――部　1「一九世紀以来の功利主義」とありますが、本文の中で「功利主義」はどのような意味で使われていますか。本文中から五十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問二　――部　2「イショクジュウ」とありますが、「イショクジュウ」に**あてはまらないもの**を次から選び、記号で答えなさい。

ア　パジャマ　　イ　マンガ　　ウ　マンション　　エ　ピザ

問三　（　①　）～（　④　）には、ア「主観」、イ「客観」のいずれかが入ります。それぞれ選び、記号で答えなさい。

問四　――部　3「前者」とありますが、何を指していますか。説明しなさい。

問五　――部　4「物理的条件」とありますが、「物理的条件」とはどのようなものだと述べていますか。本文中から十字以内でぬき出しなさい。

問六　――部　5「評価」とありますが、「評価」とはどのようなものだと述べてますか。説明しなさい。

三　一と三の問題文を読み、あなたが考えたことを百字～百五十字で書きなさい。ただし、題名を必ずつけること。

二〇二二年度　京都先端科学大学附属中学校　入学試験　B日程［BT］　国語的内容　解答用紙

受験番号

学校名　小学校

氏名

一

問一

問二

問三

問四　注意　意識

問五

二

問一　～

問六

問二

問三　①　②　③　④

問四

問五

問六

三

題名

150

100

BT

一　二　三

点線より下には何も記入しないこと。

《成績集計欄》

国　語BT

一【計４０点】

問一　ウ　（４点）

問二　買い物の経験　（個々の買い物行動）　（５点）

問三　買い手の注意をどう引いて、意識させるかということ。（６点）

問四　注意　Ａ　Ｂ　Ｄ（完答）　意識　Ｃ　Ｅ（完答（４点×２）

問五　イ　（５点）

問六　買い物の経験を積み、学習することで判断力を鍛え、記憶に止め、さらにその経験値を改善すること。　（１２点）

二【計４０点】

問一　効用をひと　～　する考え方　（５点）

問二　イ　（５点）

問三　①　ア　②　イ　③　イ　④　ア　（３点×４）

問四　各世帯が二、三台の車をもつのが珍しくないアメリカ社会で、車を一台しか買えないために不満を募らせているひと　（５点）

問五　習慣や社会的環境　（５点）

問六　自分の今の生き方を他にとり得る生き方と比較し、あるいは自分の生き方と他人の生き方とを比較するもの。　（８点）

三【計２０点】

題名　省略　（５点）

論述　省略　（１５点）